





絹よ、輝け。 人よ、輝け。

優雅に艶めく光沢感。

しつとりと手になじむなめらかさ。

絹は古来より真珠や象牙に並ぶ「極細の宝石」として、クレオパトラ、卑弥呼、そしてマリー・アントワネットに至るまで時代を超えて世界中の人々に愛されてきました。

西村織物は、二〇二二年で創業百六十年を迎えました。
博多織最古の織元として、創業以来、
ずっと絹織物の品質向上を追求し続けてまいりました。

どうすれば、もっと、上品に光らせることができるのか。
どうすれば、もっと、肌触りがよくなるのか。
どうすれば、もっと、しなやかで丈夫な帯に仕上げるのか。
どうすれば、もっと、身につけた人を幸せにできるのか。

今もなお、職人一人ひとり、社員一人ひとりが、
日々、帯や着物を身につける人に思いを馳せ、
絹糸を手に行錯誤を繰り返しています。

これからも、一本一本の絹糸から、もっと光を引き出すために。
着物を着るすべての人の魅力を、もっと引き出すために。
そして、日本の伝統織物の可能性を、もっともっと引き出すために。
一本一本の絹糸に、万感の思いを込めて。
世界に通じる織屋となるために、精進を続けてまいります。



歴史

History

The Nishimura family began with Nishimura Masuemon Michitetsu ., Masuemon participated in the division of the town of Hakata in Tensho 15 (1587). He started trading as a yarn merchant and contributed to the development of Hakata. At that time, his family crest was given to him by Toyotomi Hideyoshi. In 1861, Nishimura Gihei turned to weaving and opened a Hakata weaving company. The history of the oldest Hakata weaving has been passed down to Soichiro VI.

The stripe pattern unique to Hakata-ori, the "Kenjo-gara" has always fascinated people. It is based on the motif of Buddhist ritual implements, which symbolize "protection from bad luck, dispelling epidemics, and prosperity". The dedication pattern of Hakata-ori is a symbol of the ancient prayer to protect people from disasters and lead them to prosperity.



最古の博多織の歴史、 その始まりは糸商から

西村家は、戦国時代の武士団・松浦党の西村増右衛門道徹に始まります。増右衛門は天正15年（1587）博多の町割りに参画。糸商として貿易を始め、豪商・神屋宗湛とともに博多の町づくりに貢献しました。当時、豊臣秀吉から授かった紋を家紋としています。

文久元年（1861）年、西村儀平は織屋に転向、博多区中市小路に博多織屋を構えました。空襲で工場を失う困難もありましたが、最古の博多織としての歴史は、六代目 聡一郎へと受け継がれています。

風土を織り込んだ博多織

人々を魅了してやまない博多織独特のストライプ文様。それは「独鈷・華皿」という仏教の法具をモチーフとしており、「厄除や疫病退散、繁栄」を象徴しています。鎌倉時代に博多織の原点となる織物を中国・宋から持ち帰った満田弥三右衛門が、共に宋へ渡った臨済宗の僧・聖一国師の助言を受けて考案したとされています。のちに初代福岡藩主・黒田長政が博多織を江戸幕府へ献上したことから、その文様は「献上柄」と呼ばれるようになりました。博多織の献上柄には、人々を災いから守り繁栄へ導くという古来からの祈りが込められているのです。





The world's highest quality raw silk is actually produced in Brazil. At Nishimura Orimono, we use only the finest raw silk from Brazil. In order to bring out the beauty of raw silk itself. Weaving with a variety of unique techniques creates the original luster and feel of silk.

The obis produced by Nishimura Orimono have various charms.

BRATAC was established by Japanese who came to Brazil in the Meiji era (1868-1912), and is a unique silk manufacturer in the world with an integrated production system from sericulture to spinning and twisting. It is used by international luxury brands for their silk products. Nishimura Orimono is one of the few authorized weavers in Japan to deal directly with this BRATAC silk.

絹 Silk

最高品質の生糸が叶える、
絹本来の光沢と手触り

世界最高品質の生糸の産出国は、実はブラジル。西村織物では、ブラジル産の中でもさらに選りすぐりの生糸を使用しています。生糸そのものの持つ美しさを引き出すために。多様な独自の技術で織り上げ、絹本来の光沢と手触りを生み出します。

西村織物の帯、その魅力はさまざま——
現代的な意匠の新作を意欲的に取り入れた、佐賀錦や袋帯。

軽さときゅつと締まる快感、博多織の快
適さが存分に味わえる、八寸帯。

独自の織り方を開発し、フオーマルから
夏物まで充実している、九寸帯。

カラフルで多種多様、どんな浴衣や夏も
着物にもぐつと映える、半幅帯。

古来よりたくさんの方々に愛され、落語
界からの信頼も厚い、角帯。

独自の技術で開発された着物愛好家た
ちの新たな定番、紗の伊達締。

ブラタクシルク公認織元

ブラタク社は明治期にブラジルへ渡った日本人によって設立され、養蚕・製糸・撚糸にいたるまで一貫した生産体制をもつ、世界でも比類なきシルクメーカーです。国際的なラグジュアリーブランドの絹製品に採用されています。

西村織物は、そのブラタクシルクを長年にわたり直接取引している、日本でも数少ない公認織元です。





創造

Creation

The manufacturing process of Hakata-ori is very delicate. The shuttle of the weft thread runs over the warp thread on the loom, and the bead is driven in - it may seem like a simple movement, but the slightest touch can change the finished product.

At Nishimura Orimono, all aspects of obi production are done in-house.

Every step of the process is carefully carried out one by one, including the creation of designs, designing, spinning, warping, and weaving. In addition to the traditional designs of Hakata obi, we also actively develop designs that are ahead of the times. In addition to supporting traditional craftsmen, we also continue to train young people. Nishimura Orimono's mission is to provide textiles that will be loved for a long time beyond generations. We believe that the accumulation of sincere and steady work is the key to the completion of timeless textiles.

伝統工芸士、若手意匠家、
職人ひとりひとりの誠実さが
織りなすものづくり

博多織の製造工程は、実に繊細。織機に仕掛けられた経糸に緯糸の杼が走り、篋が打ち込まれる——単純な動きに見えますが、ほんのちょっとした加減で仕上がりが変わってきます。

西村織物では、带づくりのすべてを社内で行っています。

図案の創作、意匠化、糸繰り、整経、織り——すべての工程をひとつひとつ丁寧に進めます。博多帯伝統の意匠はもちろんですが、時代を先取りするデザインも積極的に開発。伝統工芸士の支援とともに、若手の育成も継続しています。世代を超えて長く愛されていく、そんな織物を提供するのが西村織物の使命。誠実で地道な仕事の積み重ね、それこそが時代を超えるテキスタイルを完成させると思っています。

すべての職人の思いをひとつにして、西村織物ならではの品質と新鮮な意匠を、これからも提案していきます。





西村織物

創始天正十五年

nishimura-orimono.jp

